

氏名

点数

点/100点

各論演習 20-1

問1)

当社の以下の資料にもとづいて、下記の設問に答えなさい。

(資料)

1. 標準原価カード

標準原価カード (製品1個あたり)		
直接材料費:	@500円×5kg =	2,500円
直接労務費:	@600円×4時間 =	2,400円
製造間接費:	@900円×4時間 =	3,600円
		8,500円
月間固定製造間接費予算額		27,000,000円

2. 生産データ

月初仕掛品	1,000個	(0.4)
当月投入	11,000個	
合計	12,000個	
月末仕掛品	1,700個	(0.5)
当月完成品	10,300個	

(注) 直接材料は工程の始点で投入される。上記()内は加工費の進捗度を示す。

3. 原価データ

- (1) 直接材料実際消費額は28,469,000円で、月初材料棚卸数量は1,700kg、当月材料仕入数量は60,000kg、月末材料棚卸数量は3,600kgであった。
- (2) 直接労務費実際発生額は26,680,000円で、実際直接作業時間は44,200時間であった。
- (3) 製造間接費実際発生額は40,250,000円で、そのうち変動費は13,500,000円であった。
- (4) 製造間接費は直接作業時間を配賦基準としており、変動費率は300円/時間である。
- (5) 標準変動販売費(製品1単位あたり)は120円である。
- (6) 変動販売費実際発生額は1,187,655円である。
- (7) 固定販売費実際発生額は2,062,000円である。
- (8) 一般管理費実際発生額(全額固定費)は4,950,000円である。
- (9) 当月中の製品(1単位)売価は10,000円である。
- (10) 月初製品棚卸数量は1,600個、月末製品棚卸数量は1,900個である。

【設問1】 全部標準原価計算による損益計算書を作成しなさい。

【設問2】 直接標準原価計算による損益計算書を作成し、その末尾において固定費調整を行い、全部標準原価計算の営業利益に調整しなさい。

解1)

【設問1】 全部標準原価計算による損益計算書

損益計算書

(単位：円)

I 売上高		
II 標準売上原価		
1. 月初製品棚卸高		
2. 当月製品製造原価		
合計		
3. 月末製品棚卸高		
標準売上総利益		
III 標準原価差異		
1. 価格差異		
2. 数量差異		
3. 賃率差異		
4. 時間差異		
5. 予算差異		
6. 能率差異		
7. 操業度差異		
実際売上総利益		
IV 販売費及び一般管理費		
営業利益		

(注1) 不利差異は金額の前に△を付すこと。
能率差異は変動費と固定費の両方から算出すること。

【設問2】 直接標準原価計算による損益計算書

損益計算書

I 売上高		
II 標準変動売上原価		
1. 月初製品棚卸高		
2. 当月製品製造原価		
合計		
3. 月末製品棚卸高		
標準変動製造マージン		
III 標準変動販売費		
標準貢献利益		
IV 標準変動費差異		
1. 価格差異		
2. 数量差異		
3. 賃率差異		
4. 時間差異		
5. 予算差異		
6. 能率差異		
7. 変動販売費差異		
実際貢献利益		
V 固定費		
1. 固定製造間接費		
予算差異		
2. 固定販売費		
3. 一般管理費		
直接標準原価計算の営業利益		
固定費調整額		
全部標準原価計算の営業利益		

(注1) 不利差異は金額の前に△を付すこと。